

生命医療倫理学特講

[講義] 第1学年 前期 必修 1単位

《担当者名》 吉田 繁 幸村 近 藏満保宏 高橋祐輔

【概要】

臨床検査学分野における研究者および研究指導者として信頼性のある研究を遂行するためには研究対象者の保護や研究不正の防止といった研究公正、研究安全、研究倫理の遵守が求められる。また臨床検査領域における研究を実施する際には研究倫理のみならず医療倫理の遵守やリスク予見、アクシデント対策といったリスクマネジメントが必要となる。本特講では、研究者および研究指導者として必要となる倫理やリスクマネジメントについての知識および倫理感の修得を目的とする。

【学修目標】

- 1) 臨床検査学分野における信頼性のある研究を遂行するために、生命倫理、研究倫理、医療倫理について理解する。
- 2) 医学・生命科学の発展と生命倫理との関係について説明できる。
- 3) 研究や医療、教育における倫理問題について説明できる。
- 4) 研究不正とその防止手段について説明できる。
- 5) 保健・医療・福祉の制度とそれらに関する倫理の概要を説明できる。
- 6) 研究や医療、臨床検査におけるリスクマネジメントについて説明できる。
- 7) 研究指導者に必要とされる倫理について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	生命倫理1	<ul style="list-style-type: none"> ・医学・生命科学の発展と生命倫理との関係について教授する。 ・生命倫理についての現況や問題点について教授する。 ・出生前診断や生殖補助医療の進歩と現況について教授する。 	藏満保宏
2	生命倫理2	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝医学やゲノム医学の進歩と現況について教授する。 ・遺伝子診断やヒト細胞を対象とした遺伝子関連検査に係る倫理問題について教授する。 ・再生医療の進歩と現況、倫理問題について教授する。 	藏満保宏
3	研究倫理1	<ul style="list-style-type: none"> ・人を対象とした医学・生命科学研究の歴史と現況、研究倫理について教授する。 ・動物を対象とした研究に係る倫理について教授する。 ・調査研究や臨床試験などの研究領域特有の倫理について教授する。 	高橋祐輔
4	研究倫理2	<ul style="list-style-type: none"> ・研究における公正性、透明性を担保するための研究公正について教授する。 ・実験終了後のデータの取り扱いや研究成果の共有、研究の信頼性や利益相反といった研究者として求められる倫理について教授する。 ・研究者が安全かつ公正に研究を遂行するために必要となる研究安全について教授する。 	高橋祐輔
5	医療倫理1	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の保健・医療・福祉の動向と現況、問題点について教授する。 ・医療現場におけるインフォームド・コンセントやコミュニケーションの重要性について教授する。 	幸村 近
6	医療倫理2	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の保健・医療制度について教授する。 ・超高齢社会における医療、福祉、介護の現況と倫理問題について教授する。 ・終末期医療におけるケアや生命維持治療に係る倫理問題について教授する。 	幸村 近
7	リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・研究や医療、臨床検査におけるリスクとそのマネジメントについて教授する。 	吉田 繁

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・リスク分析の手法とその概要について教授する。	
8	研究指導者としての倫理	・研究者および後進への研究指導の際に必要とされる個人の人権の尊重やハラスメントについて教授する。 ・研究指導の際に必要とされる傾聴・共感について教授する。	吉田 繁

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験） 100%

【評価基準】

生命倫理、研究倫理、医療倫理について理解し、人を対象とした研究倫理や医療倫理、制度について説明できる者に対して単位を付与し、学修目標に記載する能力の達成度に応じて、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）の評価を与える。

【参考書】

医学・生命科学の研究倫理ハンドブック 第2版（東京大学出版会）

【備考】

ライブ配信による授業では、Google Formを利用して授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。
オンデマンド型授業では、Google Formを利用して学習課題の提示と質疑応答の機会を確保する。

【学修の準備】

次回の授業内容について、調べておくこと（120分）

復習は、配付資料を活用し学習を深めること（120分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1) 臨床検査学の研究者に求められる研究公正や研究安全を含む倫理観を身につけていること。

【実務経験】

吉田 繁（臨床検査技師）、幸村 近（医師）、藏満保宏（医師）、高橋祐輔（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、医学・医療における研究者、教育者に必要となる倫理やリスク管理、コミュニケーションについて講義する。